

ヤマノイモ<sup>\*1</sup>(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	葉病	つる病	炭疽病	褐色腐敗病	青かび病	根腐病
I Cボルドー66DFL	M1		*a	-					◎ ム	
Zボルドー水	M1		-	-	◎		◎			
コサイド3000DF	M1		-	-	◎					
トップジンM水	1		7 45	5	◎ ム		◎ ム			
ベンレート水	1		1	3	◎		◎			
ハチハチ乳	39	劇	1	2	◎					
アミスター20FL	11		1	3	◎		◎			
ストロビーFL	11		7	3	◎ ム					
メジャーFL	11		1	3	◎		◎			
フロンサイドSC	29		*a 7	1 4				◎		
フロンサイド水	29		7	4	◎ ム					
オンリーワンFL	3		7	3	◎ ム		◎ ム			
キノンドー水40	M1		14	5	◎					
ヨネボン乳	M1		*a	1					◎	
ジマンダイセン水	M3		21	4	◎		◎			
ペンコゼブ水	M3		21	4	◎		◎			
ダコニール1000FL	M5		30 45	6	◎ ム	◎ ム	◎ ム			
ベルコートFL	M7		7 *a	5 1	◎		◎		◎ ム	
ユニフォーム粒	4・11		*a	1						◎
ベンレートT水20	1・M3		*a	1				◎ ム	◎ ム	◎
ラビライト水	1・M3		14	4	◎		◎			
ティービック水	20・M3		*a	1						◎
シトラノフFL	M1・M5		30	5	◎		◎			

\*1:ヤマノイモ…やまといも、自然薯、丸いも、ながいも、とつくりいも、いせいも、いちょういも、つくねいも、だいじよを含む

\*a:植付前 ム:ムカゴに対する登録

※ヤマノイモとムカゴの両方を収穫する場合には、①野菜類あるいは②「イモ類又はヤマノイモ」と「ヤマノイモ(ムカゴ)」の両方に登録がある農薬を使用する。

また、ムカゴの登録における「使用時期(日数)」は、ムカゴの収穫前日数なので注意する。

ヤマノイモ\*1(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使用 回 数	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	タ ネ バ エ	ナ ガ イ モ コ ガ	ヤ マ ノ イ モ コ ガ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ネ キ リ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	カ ン ザ ワ ハ ダ ニ	ネ コ ブ セ ン チ ュ ウ
デルフィン顆水	11A		*c	-						◎	◎				◎	◎
コロマイト乳	6		7	2										◎	◎	
バイデートL粒	1A	劇	*a	1												◎
オルトラン水	1B		45	1	◎				◎							
ジェイエース溶	1B		45	1	ジ											
ダイアジノンSLゾル	1B		*a	1									幼			
ネマトリンエース粒	1B		*a	1												◎ ム
アディオオン乳	3A		7	5	◎	◎			◎							
ガードベイトA粒	3A		*b	5								◎				
トレボン乳	3A		14	3	◎ ム				◎ ム		◎ ム					
トレボン粉DL	3A		14	3						◎						
フォース粒	3A	劇	*d	1			◎ ム					◎				
マブリック水20	3A	劇	7	2	◎				◎		◎					
アドマイヤー顆水	4A	劇	14	2	◎											
アドマイヤー1粒	4A		*d	1	◎									◎ ム		
ダントツ溶	4A		7	3	◎											
ダントツ粒	4A		*d	1										◎		
モスピラン顆溶	4A	劇	7 21	3	◎ ム	◎ ム			◎ ム							
トランスフォームFL	4C		3	3	◎											
ピレスコ顆水	4C		3	3	◎											
コルト顆水	9B		1	3	◎											
コテツFL	13	劇	1 3	2					◎ ム							◎ ム
アタブロン乳	15		7	3					◎ ム							
マトリックFL	18		1	3							◎					
カネマイトFL	20B		3	1										◎	◎	
マイトコーネFL	20D		3	1										◎	◎	
ハチハチ乳	21A	劇	1	2	◎				◎							
ダニサラバFL	25A		1	2										◎	◎	
フェニックス顆水	28		1 14	2					◎ ム		◎ ム					
ブレバソンFL5	28		1	3					◎		◎					
ベネビアOD	28		7	3	◎				◎		◎					
ウララDF	29		7	2	◎ ム											
グレーシア乳	30		1	2							◎					
ビーラム粒	-		*a	1												◎

\*1:ヤマノイモ…やまといも、自然薯、丸いも、ながいも、とながりいも、とつくりいも、いせいも、いちょういも、つくねいも、だいじょを含む

\*a:植付前 \*b:生育初期 \*c:発生初期(但し収穫前日まで) \*d:植付時  
ジ:ジャガイモヒゲナガアブラムシ ム:ムカゴに対する登録 幼:幼虫

※ヤマノイモとムカゴの両方を収穫する場合には、①野菜類あるいは②「イモ類又はヤマノイモ」と「ヤマノイモ(ムカゴ)」の両方に登録がある農薬を使用する。

また、ムカゴの登録における「使用時期(日数)」は、ムカゴの収穫前日数なので注意する。

ヤマノイモ

## ヤマノイモ(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
葉渋病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>ジマンダイセン水和剤 400～600倍</li> <li>ストロビーフロアブル☆</li> <li>ヤマノイモ：2000～3000倍</li> <li>ムカゴ：2000倍</li> <li>ダコニール1000(FL) ☆ 1000倍</li> <li>トップジンM水和剤☆ 800倍</li> <li>Zボルドー(水) 500倍</li> </ul>	6月下旬頃から発生する。
炭疽病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>ジマンダイセン水和剤 400～600倍</li> <li>ダコニール1000(FL) ☆ 1000倍</li> <li>トップジンM水和剤☆ 800倍</li> <li>Zボルドー(水) 500倍</li> </ul>	7月中旬より発生する。
褐色腐敗病・青かび病	植付前	<ol style="list-style-type: none"> <li>連作をさける。</li> <li>健全な種いもを使用する。</li> <li>種いもを次の薬剤で処理する。 ベンレートT水和剤20☆ 100～200倍 10分間浸漬</li> <li>褐色腐敗病に対しては土壤消毒を行う#(土壤消毒の項参照)。</li> </ol>	#青かび病を対象とした土壤消毒剤は登録されていない。
アブラムシ類	発生期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>アディオオン乳剤 2000～3000倍</li> <li>モスピラン顆粒水溶剤☆ 4000倍</li> </ul>	
ハダニ類(カンザワハダニ)	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>コテツフロアブル☆# 2000倍</li> <li>コロマイト乳剤☆ 1000倍</li> <li>マイトコーネフロアブル 1000倍</li> </ul>	#カンザワハダニでの登録
ネコブセンチュウ	植付前	<ol style="list-style-type: none"> <li>種いもは健全なものを選ぶ。</li> <li>作付予定地で、前作物に寄生のあったところでは土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。</li> <li>次の薬剤を全面土壤混和する。 ネマトリンエース粒剤☆ 20kg/10 a</li> </ol>	

☆:ヤマノイモ(ムカゴ)にも登録のある農薬。ヤマノイモを収穫する場合とは使用時期等が異なる場合があるので注意する。